「阪神競馬場徹底攻略ガイド」

presented by KAZ@競馬はビジネスである

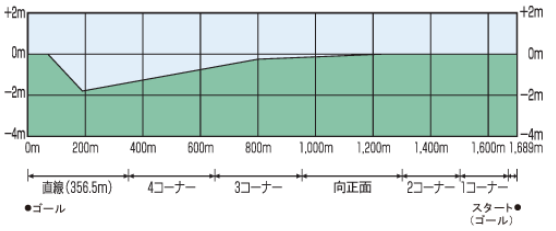
～阪神競馬場の特徴～

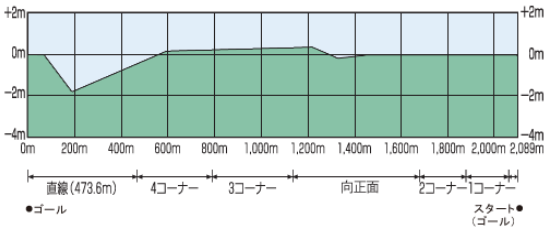
関西を代表する大箱の競馬場。外回りコース使用時は右回りの競馬場の中では最長の１周距離を誇る競馬場で、それだけスケールの大きいコースと言えるだろう。

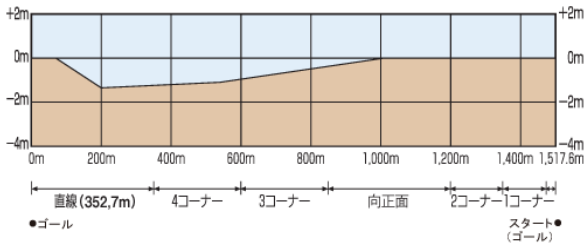
この競馬場の最大の特徴は１～２コーナーの半径が極端に小さく、外回りの３～４コーナーの半径が大きい特殊な形状をしている点。コーナーを４回走る距離ではほぼ間違いなく１～２コーナー部分でラップが緩むことが多く、このコース形状のためにあんまり速いペースになることが少ない。

外回りコースを使用する時は３～４コーナー部分も半径が大きいためにゆったりとしたペースで流れやすく、前半から中盤までゆったりと進んで直線での瞬発力勝負になりやすい。それでも直線に急坂があるために地力ははっきりと問われる感じで、地力上位の馬が順当に走りやすい傾向だ。

内回りコース使用時は３コーナー手前から下り坂になることもあってスパート地点が速くなりやすい。内回りコースと外回りコースでしっかり頭を切り替えて予想するべき舞台です。

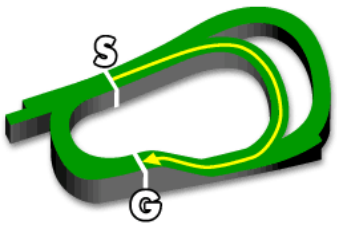






阪神芝１２００m

最初のコーナーまでの距離が短く内枠先行馬が圧倒的に有利



スタートから１コーナーまでの距離が短く、途中から下り坂になるのだがテンのペースはそこまで速くはならない。ペースがそこまで速くない上にすぐにコーナーがあって隊列がすぐに決まるので内枠先行馬が有利な条件。どのクラスでも前に行ける馬や内枠の馬が有利な傾向になっています。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	25- 11- 7- 25/ 68	36.8%	52.9%	63.2%	715	247
平地・先行	23- 35- 25-170/253	9.1%	22.9%	32.8%	72	102
平地・中団	13- 16- 25-252/306	4.2%	9.5%	17.6%	36	56
平地・後方	7- 6- 12-248/273	2.6%	4.8%	9.2%	19	28
平地・ﾏｸﾘ	0- 0- 0- 0/ 0					
3F １位	15- 15- 9- 43/ 82	18.3%	36.6%	47.6%	147	132
3F ２位	17- 10- 13- 30/ 70	24.3%	38.6%	57.1%	159	124
3F ３位	7- 10- 9- 48/ 74	9.5%	23.0%	35.1%	78	113
3F ～５位	14- 15- 20- 98/147	9.5%	19.7%	33.3%	131	104
3F ６位～	15- 18- 18-475/526	2.9%	6.3%	9.7%	66	47

※阪神芝１２00m の脚質別成績(２０２０年１月～)

枠番	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
１枠	10- 5- 5- 70/ 90	11.1%	16.7%	22.2%	100	65
２枠	14- 8- 5- 67/ 94	14.9%	23.4%	28.7%	226	102
３枠	7- 12- 11- 69/ 99	7.1%	19.2%	30.3%	223	122
４枠	5- 5- 14- 88/112	4.5%	8.9%	21.4%	34	73
５枠	9- 10- 9- 91/119	7.6%	16.0%	23.5%	97	63
６枠	8- 9- 6-102/125	6.4%	13.6%	18.4%	35	47
７枠	7- 7- 16-100/130	5.4%	10.8%	23.1%	32	73
８枠	8- 12- 3-108/131	6.1%	15.3%	17.6%	51	69

※阪神芝１２00m の枠順別成績(２０２０年１月～)

種牡馬別の成績で見ると、ロードカナロア産駒の成績が非常に優秀。それだけテンスピードが優秀な馬が有利な条件ということでしょう。

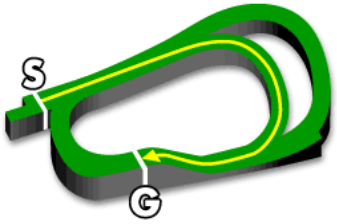
＜まとめ＞

□ 内枠先行馬が有利な条件

□ ロードカナロア産駒の成績が優秀

阪神芝１４００m

前半～中盤ペースが緩まずの消耗戦になりやすい



１コーナーまでの距離が長く、阪神芝１２００m よりも前半ペースが速くなりやすい。３コーナー手前から下り坂になるので中盤ペースも緩みにくく、前半～中盤まで緩むことがないまま直線に。内回りコースで直線が短いとはいえ、これだけ緩みないペースになると前の馬はパッタリ止まることも多い舞台。展開によっては差しも十分に決まります。

今回延長	14-	19-	20- 320/ 373	3.8%	8.8%	14.2%	69	56
今回短縮	38-	42-	37- 353/ 470	8.1%	17.0%	24.9%	40	82

※阪神芝１４00m の前走距離別成績(２０２０年１月～)

前半から速いペースで流れやすくてスタミナが問われるコースということもあり、この条件はとにかく距離短縮ローテの馬が有利。こうして全クラスの前走距離別成績を見ても短縮ローテの馬の成績が圧倒的になっています。

これはまだ体力が完成されていない２～３歳馬ではさらに顕著な傾向になっており、若駒の上級戦になればなるほど前走から距離短縮ローテの馬が有利になりやすい。特にフィリーズレビューは前走から距離短縮ローテの馬しかほとんど走っていません。

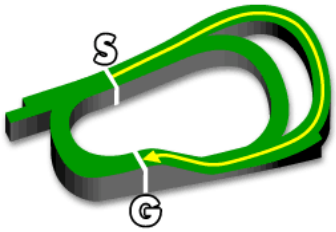
騎手で言えば阪神マイスターの川田騎手の成績が圧倒的。複勝率は６割超えになっていますし、このコースではなかなか逆らいづらいです。

＜まとめ＞

□ 前半～中盤ペースが緩みにくく、速いペースに対応できる適性が問われる
□ 距離短縮ローテが有利
□ 体力が完成されていない若駒になればなるほど距離短縮ローテが有利
□ 川田騎手が複勝率６割超え

阪神芝１６００m

スローペースでもしっかりと地力が問われる王道マイル条件



向こう正面からスタートして外回りコースを大きくゆったり回って最後の直線も長いマイルコース。序盤の先行争いもそこまで速くはなりにくいですし、中盤ペースもコーナー半径が大きいので緩みやすい。道中はゆったり進んでの直線での瞬発力勝負になることが多く、他のマイルコースに比べて中距離寄りの決め手が問われやすい。

脚質上り	着別度数				勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	21-	7-	19-	132/ 179	11.7%	15.6%	26.3%	164	118
平地・先行	74-	78-	69-	447/ 668	11.1%	22.8%	33.1%	76	92
平地・中団	67-	63-	69-	720/ 919	7.3%	14.1%	21.7%	83	71
平地・後方	18-	29-	22-	626/ 695	2.6%	6.8%	9.9%	11	38
平地・ﾏｸﾘ	0-	1-	0-	2/ 3	0.0%	33.3%	33.3%	0	50
3F　１位	73-	50-	23-	69/ 215	34.0%	57.2%	67.9%	287	189
3F　２位	39-	36-	24-	90/ 189	20.6%	39.7%	52.4%	132	134
3F　３位	30-	31-	36-	95/ 192	15.6%	31.8%	50.5%	159	201
3F　～５位	24-	38-	38-	256/ 356	6.7%	17.4%	28.1%	92	83
3F　６位～	14-	23-	58-	1414/1509	0.9%	2.5%	6.3%	10	27

※阪神芝１６００m の脚質別成績(２０２０年１月～)

こうして見ても他のコースに比べて逃げ馬の成績は微妙で、速い上がりを使える馬の活躍が目立っています。前に行ける馬が展開利で粘り込むことはそこまで多くない舞台で、それよりも直線でいかに速い上がりが使えるかが重要になる舞台です。

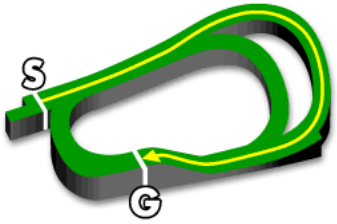
＜まとめ＞

□ 前半～中盤ラップが緩んでの直線瞬発力勝負になりやすい

□ 直線で速い上がりを使える馬の成績が優秀

阪神芝１８００m

とにかく決め手の絶対値が問われる末脚特化型のワンターンコース



基本的なコース構造は阪神芝１６００m と同じ。距離が２００m 伸びる分で中距離馬が多数使ってくるが、前半～中盤ペースが流れることはほとんどなく長い直線での瞬発力勝負になります。

脚質上り	着別度数				勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	23-	19-	11-	81/ 134	17.2%	31.3%	39.6%	250	140
平地・先行	64-	57-	55-	324/ 500	12.8%	24.2%	35.2%	122	79
平地・中団	27-	33-	41-	381/ 482	5.6%	12.4%	21.0%	27	59
平地・後方	19-	22-	26-	388/ 455	4.2%	9.0%	14.7%	96	62
平地・ﾏｸﾘ	2-	2-	1-	3/ 8	25.0%	50.0%	62.5%	42	135
3F　１位	69-	42-	20-	26/ 157	43.9%	70.7%	83.4%	431	207
3F　２位	33-	39-	33-	44/ 149	22.1%	48.3%	70.5%	151	213
3F　３位	12-	23-	26-	71/ 132	9.1%	26.5%	46.2%	150	143
3F　～５位	12-	20-	38-	197/ 267	4.5%	12.0%	26.2%	89	69
3F　６位～	9-	9-	17-	838/ 873	1.0%	2.1%	4.0%	20	16

※阪神芝１８００m の脚質別＆上がり３ハロン別成績(２０２０年１月～)

こうして見てもとにかく速い上がりが使える馬が有利な成績で、上がり１位と上がり２位の成績は圧倒的。上がり６位以下は壊滅的な成績になっていますし、キレずバテず系の馬をこのコースで買ってはいけません。

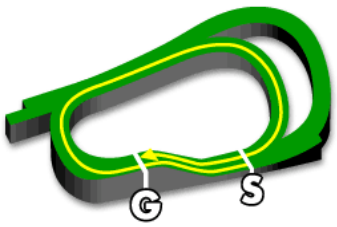
そんな決め手特化型のコースということもあって、ディープインパクト産駒やドゥラメンテ産駒のような王道クラシック血統の成績が優秀。これからディープインパクト産駒の数は少なくなっていきますが、似たようなイメージでキレる脚が使える血統を狙うべきコースでしょう。

阪神競馬場では大体どの距離でも優秀な成績を誇る川田騎手ですが、この舞台に関しては複勝率７割超え。なかなか軽視するのは難しい成績になっています。

<まとめ>
□ 前半スローペースから決め手の絶対値が問われる
□ ディープインパクト産駒やドゥラメンテ産駒のような王道クラシック血統が有利
□ 川田騎手が複勝率７割超えの圧倒的な成績

阪神芝２０００m

コース形状の影響で前半スローからのロンスパギアチェンジ戦になりやすい



スタート直後に急坂があり、なおかつ１～２コーナーの半径が小さいので先行馬が揃っていても物理的に前半ペースがスローになりやすい条件。最初のコーナー部分でまず間違いなく一旦ペースは落ち着くが、向こう正面から３コーナーの入り口あたりから下り坂になるのでスパート地点は早くなりやすい。直線が短い内回りコースということもあってロングスパート勝負になりやすく、勝負所でグイッと加速できるギアチェンジ性能や後半１０００m を速く走れるロングスパート性能が問われる舞台です。

脚質上り	着別度数				勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	28-	24-	10-	76/ 138	20.3%	37.7%	44.9%	194	133
平地・先行	64-	54-	49-	302/ 469	13.6%	25.2%	35.6%	83	78
平地・中団	31-	40-	44-	349/ 464	6.7%	15.3%	24.8%	42	68
平地・後方	7-	10-	27-	378/ 422	1.7%	4.0%	10.4%	17	44
平地・マクリ	6-	4-	4-	7/ 21	28.6%	47.6%	66.7%	142	140
3F　１位	67-	38-	26-	27/ 158	42.4%	66.5%	82.9%	212	225
3F　２位	25-	24-	33-	53/ 135	18.5%	36.3%	60.7%	115	159
3F　３位	19-	35-	32-	73/ 159	11.9%	34.0%	54.1%	97	134
3F　～５位	17-	23-	27-	190/ 257	6.6%	15.6%	26.1%	67	71
3F　６位～	8-	12-	16-	769/ 805	1.0%	2.5%	4.5%	18	14

※阪神芝２０００m の脚質別＆上がり３ハロン別成績(２０２０年１月～)

コーナー４回の芝２０００m という条件なのであまり速い上がりは必要ないように思うコースだが、こうして上がり別の成績を見ても速い上がりを使える馬が圧倒的な成績。主要コースの根幹距離ということで、内回りコースでもしっかりビュンと速い上がりを使える馬が走っている感じです。

順位	種牡馬	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	ディープインパクト	23- 21- 21- 94/159	14.5%	27.7%	40.9%	87	74
2	ルーラーシップ	12- 9- 10- 48/ 79	15.2%	26.6%	39.2%	144	136
3	キングカメハメハ	11- 9- 5- 40/ 65	16.9%	30.8%	38.5%	67	112
4	ドゥラメンテ	11- 8- 7- 31/ 57	19.3%	33.3%	45.6%	80	132

※阪神芝２０００ｍの種牡馬別成績(２０２０年１月～)

そんな速い上がりが問われる条件ということもあり、コース成績上位の種牡馬はディープインパクトやキングカメハメハ系の馬ばかり。内回りコースを使う舞台ですが、王道クラシック血統を狙うべき条件と言えるでしょう。

最近の阪神芝２０００ｍ重賞の結果を見ていると、異常なほどにヴァイスリージェント系を持つ馬が走っているので、ヴァイスリージェントの血を持っている馬もこの舞台は得意なはずです。

順位	調教師	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	(栗)友道康夫	19- 7-12-19/57	33.3%	45.6%	66.7%	196	100
2	(栗)斉藤崇史	10- 8- 6-20/44	22.7%	40.9%	54.5%	129	99
3	(栗)高野友和	9- 7- 3-13/32	28.1%	50.0%	59.4%	143	105

※阪神芝２０００ｍの厩舎馬別成績(２０２０年１月～)

この条件は厩舎別の成績でも得意厩舎がはっきりと出ている傾向。長丁場が大得意な友道厩舎、コーナー４回の内回りコースが得意な斉藤厩舎と高野厩舎が素晴らしい成績を収めています。

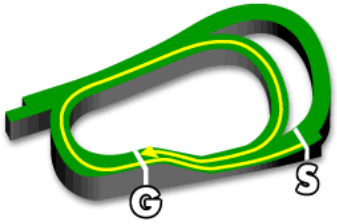
騎手でいうとやはり阪神マイスターの川田騎手の成績が複勝率７割超えと圧倒的。同じく前付けしてタイトな騎乗ができる横山武史騎手も関東の騎手ながらやたらに得意としているコースです。

＜まとめ＞

□ 前半スローからのロンスパ戦になり、ギアチェンジ性能とロンスパ性能が問われる
□ 内回りコースを使用するが速い上がりを使える馬が有利
□ ディープインパクト系やキングカメハメハ系の王道クラシック血統が優勢
□ この条件の重賞はヴァイスリージェント系を持つ馬がやたらに走っている
□ 友道厩舎、斉藤厩舎、高野厩舎の成績が圧倒的
□ 川田騎手や横山武史の成績が優秀

阪神芝２２００m

キレよりスタミナが問われる典型的な非根幹距離条件



スタートしてから１コーナーまでの距離が長く、普通のコースならテンが遅くて位置が取れない馬でも主張すれば位置が取れるのが特徴。スタートが遅くて不器用な競馬しかできなかったゴールドシップが宝塚記念でやたらに活躍できたのも、１コーナーまでの距離が長くて位置が取りやすいことが大きかったと思います。

コーナー４回の阪神コースということもあって１～２コーナー部分で一旦ペースは落ちるが、向こう正面から下り坂でスパートが早くなりやすく、後半部分はだらっと平均ペースで流れてスタミナが問われる条件です。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	3- 6- 2- 28/ 39	7.7%	23.1%	28.2%	169	100
平地・先行	20- 13- 13- 82/128	15.6%	25.8%	35.9%	139	83
平地・中団	11- 14- 14-121/160	6.9%	15.6%	24.4%	92	87
平地・後方	2- 5- 6-121/134	1.5%	5.2%	9.7%	4	26
平地・ﾏｸﾘ	2- 1- 2- 4/ 9	22.2%	33.3%	55.6%	98	202
3F １位	19- 11- 8- 12/ 50	38.0%	60.0%	76.0%	394	202
3F ２位	10- 6- 9- 8/ 33	30.3%	48.5%	75.8%	363	237
3F ３位	5- 7- 9- 24/ 45	11.1%	26.7%	46.7%	55	127
3F ～５位	2- 11- 8- 52/ 73	2.7%	17.8%	28.8%	14	107
3F ６位～	2- 4- 3-259/268	0.7%	2.2%	3.4%	20	8

※阪神芝２２００ｍの脚質別＆上がり３ハロン別成績(２０２０年１月～)

そんなキレよりスタミナが問われる条件の割に上がり上位の馬の好成績が目立つが、これは結果的にスタミナ上位の馬が速い上がりで走っているだけで、他条件でスパッとキレるような馬が走っているわけではありません。とにかくバテずに走れるスタミナがある馬や、非根幹距離条件に強い馬が有利な舞台と言えます。

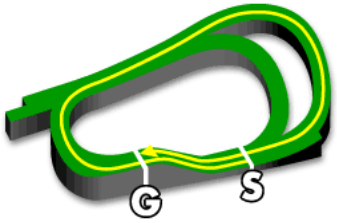
血統傾向を見ても、ディープインパクト産駒よりも非根幹距離向きのキズナ産駒の成績の方が優秀ですし、大レースでもキレが売りのサンデーサイレンス系より非サンデーサイレンス系の活躍が目立つ感じになっています。

<まとめ>

□ １コーナーまでの距離が長く、主張すれば位置が取れるコース
□ 後半はだらっと流れて持続力勝負になるのでキレよりスタミナ型が有利
□ スタミナがある馬や非根幹距離巧者が走りやすい
□ 非根幹距離巧者のキズナ産駒や非サンデーサイレンス系が良く走る

阪神芝２４００m

急坂を２回越える末脚特化型条件



スタート直後と最後の直線で２回坂を越える長距離戦。そもそも距離が２４００m ありますし、なかなかこの条件は多頭数になることもないので、まず間違いなく前半から中盤はスローペースになるのが定番。かと言って前に行った馬が展開利で粘れるような舞台でもなく、最後の直線でしっかりと末脚を使える馬が圧倒的に有利なコースです。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	7- 6- 3- 33/ 49	14.3%	26.5%	32.7%	59	68
平地・先行	23- 21- 23- 97/164	14.0%	26.8%	40.9%	61	77
平地・中団	11- 17- 16-112/156	7.1%	17.9%	28.2%	141	69
平地・後方	7- 2- 3-127/139	5.0%	6.5%	8.6%	30	14
平地・マクリ	1- 1- 3- 11/ 16	6.3%	12.5%	31.3%	17	94
3F １位	32- 9- 7- 12/ 60	53.3%	68.3%	80.0%	395	149
3F ２位	10- 18- 7- 17/ 52	19.2%	53.8%	67.3%	160	123
3F ３位	2- 11- 13- 16/ 42	4.8%	31.0%	61.9%	15	147
3F ～５位	4- 8- 14- 63/ 89	4.5%	13.5%	29.2%	63	64
3F ６位～	1- 1- 7-269/278	0.4%	0.7%	3.2%	4	11

※阪神芝２４００m の脚質別＆上がり３ハロン別成績(２０２０年１月～)

超スローペースでも結局は一団の競馬からの決め手勝負になりやすく、この条件はなんだかんだで決め手上位の馬が有利。急坂を２回越えることもあって地力もしっかり問われる条件だと思います。

順位	騎手	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	福永祐一	7- 4- 5- 6/22	31.8%	50.0%	72.7%	95	117
2	川田将雅	7- 3- 6- 5/21	33.3%	47.6%	76.2%	70	96
3	和田竜二	4- 5- 5- 9/23	17.4%	39.1%	60.9%	485	142

※阪神芝２４００m の騎手馬別成績(２０２０年１月～)

現役最上位騎手の福永騎手と阪神マイスターの川田騎手が圧倒的な成績。複勝率７割超えとなるとなかなか軽視して考えるわけにはいかないか。それ以外では和田騎手が非常に優秀な成績を収めており、このコースのツボをおさえている感じがします。

厩舎別の成績では現役ナンバーワンのステイヤー厩舎の友道厩舎の成績が圧倒的。この条件では複勝率が７割を超えるので、友道厩舎の馬がこのコースを使ってきた時は軽視禁物です。

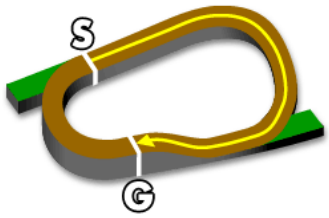
種牡馬別の成績ではキングカメハメハ産駒の成績が優秀。と言ってもキングカメハメハ産駒はこれから数が少なくなっていくので、それ以外ではエピファネイア産駒が複勝率５割に迫る素晴らしい成績。これからの阪神芝２４００ｍはエピファネイア産駒の天下になるかも？？

＜まとめ＞

□ ほぼ確実にスローで流れるが地力がしっかり問われて差しが決まる
□ 速い上がりを使える馬の成績が優秀
□ 福永騎手、川田騎手、和田騎手の成績が非常に優秀
□ 友道厩舎が複勝率７割を超える圧倒的な成績
□ キングカメハメハ産駒とエピファネイア産駒が素晴らしい成績

阪神ダート１２００m

基本的には先行有利なスタンダード１２００m条件



イメージは阪神芝１２００mのダート版と考えて良さそうで、こちらも最初のコーナーまでの距離が短いためにそこまでペースは速くならず、前に行った馬が圧倒的に有利。まぁ中央競馬のダート１２００mはどの条件でも先行有利ですが、このコースはそこまでクセもなくスタンダートに前有利なダート１２００m という感じです。

脚質上り	着別度数				勝率	連対率	複勝率
平地・逃げ	52-	32-	27-	105/ 216	24.1%	38.9%	51.4%
平地・先行	116-	98-	85-	480/ 779	14.9%	27.5%	38.4%
平地・中団	37-	69-	72-	964/1142	3.2%	9.3%	15.6%
平地・後方	11-	18-	31-	950/1010	1.1%	2.9%	5.9%
平地・ﾏｸﾘ	0-	0-	0-	0/ 0			
3F １位	69-	42-	26-	114/ 251	27.5%	44.2%	54.6%
3F ２位	31-	39-	29-	132/ 231	13.4%	30.3%	42.9%
3F ３位	39-	38-	33-	135/ 245	15.9%	31.4%	44.9%
3F ～５位	36-	41-	40-	306/ 423	8.5%	18.2%	27.7%
3F ６位～	41-	57-	87-	1811/1996	2.1%	4.9%	9.3%

※阪神ダート１２００mの脚質別＆上がり３ハロン別成績(２０２０年１月～)

全クラスの成績で見ても逃げ先行馬が圧倒的に有利な戦績。基本的にダート１２００mは上のクラスに行けば行くほど差しが決まりやすくなるので、この成績を新馬戦と未勝利戦だけに絞ると、、、

脚質上り	着別度数				勝率	連対率	複勝率
平地・逃げ	32-	24-	15-	30/ 101	31.7%	55.4%	70.3%
平地・先行	60-	46-	46-	205/ 357	16.8%	29.7%	42.6%
平地・中団	8-	26-	27-	451/ 512	1.6%	6.6%	11.9%
平地・後方	1-	6-	12-	454/ 473	0.2%	1.5%	4.0%
平地・ﾏｸﾘ	0-	0-	0-	0/ 0			
3F １位	39-	23-	10-	44/ 116	33.6%	53.4%	62.1%
3F ２位	15-	22-	12-	47/ 96	15.6%	38.5%	51.0%
3F ３位	22-	19-	17-	63/ 121	18.2%	33.9%	47.9%
3F ～５位	17-	15-	23-	141/ 196	8.7%	16.3%	28.1%
3F ６位～	8-	23-	38-	845/ 914	0.9%	3.4%	7.5%

※阪神ダート１２００mの新馬戦&未勝利戦の脚質別＆上がり３ハロン別成績(２０２０年１月～)

新馬戦と未勝利戦に絞ると逃げ馬の複勝率は７割超え。もう下級条件では基本的に前に行った馬が圧倒的に有利と考えて良さそうで、なかなか差し狙いは厳しい舞台と言えます。この成績は３勝クラス以上になると逃げ馬の複勝率は２割台にまで落ちるので、どのクラスのレースかで柔軟に考えた方が良さそうです。

騎手別の成績で見ると阪神マイスターの川田騎手が複勝率６割超えの素晴らしい成績。基本的に前付けできる騎手ですし、この条件の成績も非常に優秀になっています。

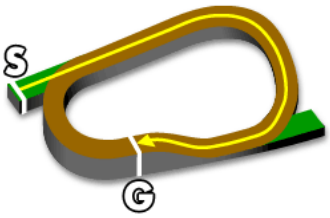
種牡馬別の成績で見るとテンスピードに優れた父ストームキャット系の成績がなかなか優秀。その中でもドレフォン産駒は複勝率が４割を超えていますし、この条件は得意と見て間違いないでしょう。

＜まとめ＞

□ 基本的に前に行った馬が圧倒的に有利
□ 新馬、未勝利レベルではさらに前有利だが、３勝クラス以上ではそうでもない
□ 川田騎手は複勝率６割超えで非常に優秀な成績
□ テンスピードに優れたストームキャット系の成績が優秀でドレフォン産駒がよく走る

阪神ダート１４００m

１２００m よりは脚質のバリエーション豊富で馬場バイアスもはっきり出る



スタート直後は芝を走るが、最初のコーナーまでの距離が長いこともあって１２００m と遜色ないかそれ以上に前半ペースが速くなりやすい舞台。それでいて直線に急坂があるのでダート短距離戦にしては前の馬が止まりやすい舞台で、ダート１２００m と比較しても先行タイプの馬の成績が一気に下がる。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率
平地・逃げ	32- 24- 25- 175/ 256	12.5%	21.9%	31.6%
平地・先行	137- 121- 99- 596/ 953	14.4%	27.1%	37.5%
平地・中団	72- 86- 99-1104/1361	5.3%	11.6%	18.9%
平地・後方	15- 24- 33-1149/1221	1.2%	3.2%	5.9%
平地・ﾏｸﾘ	1- 0- 0- 2/ 3	33.3%	33.3%	33.3%
3F １位	88- 65- 39- 116/ 308	28.6%	49.7%	62.3%
3F ２位	70- 47- 32- 120/ 269	26.0%	43.5%	55.4%
3F ３位	39- 36- 46- 147/ 268	14.6%	28.0%	45.1%
3F ～５位	34- 58- 68- 367/ 527	6.5%	17.5%	30.4%
3F ６位～	26- 49- 71-2272/2418	1.1%	3.1%	6.0%

※阪神ダート１４００m の脚質別＆上がり３ハロン別成績(２０２０年１月～)

これは新馬戦や未勝利戦でも同じような傾向が出ており、あんまりダート短距離だから前有利という短絡的思考で考えない方がいいコースです。

序盤から速いペースで流れて道中負荷がきつい舞台ということもあり、揉まれずにスムーズな競馬ができる外目の枠の方が有利な傾向。

枠番	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
１枠	26- 11- 21-354/412	6.3%	9.0%	14.1%	58	43
２枠	27- 27- 29-363/446	6.1%	12.1%	18.6%	32	61
３枠	24- 29- 28-377/458	5.2%	11.6%	17.7%	31	78
４枠	40- 24- 36-378/478	8.4%	13.4%	20.9%	66	70
５枠	36- 43- 35-375/489	7.4%	16.2%	23.3%	71	81
６枠	31- 35- 35-399/500	6.2%	13.2%	20.2%	75	78
７枠	27- 48- 36-395/506	5.3%	14.8%	21.9%	61	89
８枠	46- 38- 36-389/509	9.0%	16.5%	23.6%	65	91

※阪神ダート１４００m の枠順別成績(２０２０年１月～)

こうして枠順別の成績を見ても、明らかに内枠の方が成績が悪く外目の枠の方が優秀な成績。道中負荷が強いレースでこういった傾向は出やすいですが、この阪神ダート１４００ｍもそれだけタフできつい舞台ということでしょう。

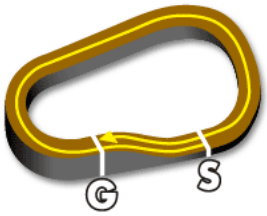
通常時でも外枠有利の傾向が出ているコースですが、阪神ダートは含水率の低いタフな馬場になると顕著な外枠有利馬場になることがあります。そういう馬場になった時に最も外枠有利になりやすいのがこの阪神ダート１４００ｍで、外伸びバイアスになった時はドル箱コースと覚えておきたいです。

＜まとめ＞

□ 道中負荷がきついコースで先行馬の成績は他のダート短距離戦に比べると微妙
□ 内枠不利で外寄りの枠の方が成績優秀
□ 外伸びバイアスが発生した時はドル箱コースになりやすい

阪神ダート１８００m

３ハロン目が緩んでのロングスパート戦がこの舞台のスタンダード



スタート直後に急坂があって１～２コーナーの半径がきついというのは阪神芝２０００m と同じ。レースラップ的にも同じような特徴が出ており、ちょうど最初のコーナー区間の３ハロン目で一気にラップが緩んで息が入り、向こう正面から徐々にペースが早くなってのロングスパート戦になりやすい。

日付	クラス	馬場	タイム	勝ち馬	1F	2F	3F	4F	5F	6F	7F	8F	9F	上3F	中3F	下3F	上5F	下5F
2月12日	未勝利	良	1:55:0	ランスオブウェイブ	12.8	11.4	13.8	12.6	12.6	12.8	12.8	12.7	13.5	38	38	39	63.2	64.4
2月12日	未勝利	良	1:53:7	ノットウルノ	13.1	11.4	13.8	12.7	12.6	12.4	12.4	12.3	13	38.3	37.7	37.7	63.6	62.7
2月12日	1勝	良	1:55:8	ラボンダンス	13	12	14.2	13.5	13.1	12.9	12.5	12	12.6	39.2	39.5	37.1	65.8	63.1
2月13日	未勝利	良	1:57:2	ブリヨンカズマ	12.9	11.7	14.3	13.7	13	13.1	12.8	12.5	13.2	38.9	39.8	38.5	65.6	64.6
2月13日	新馬	良	1:57:0	エルデスペラード	13.6	11.9	14.6	13.1	13	12.9	12.6	12.4	12.9	40.1	39	37.9	66.2	63.8
2月13日	1勝	良	1:55:6	カサデガ	13.1	11.9	14.7	13.1	12.7	12.8	12.4	11.9	13	39.7	38.6	37.3	65.5	62.8
2月13日	3勝	稍重	1:52:8	アルーブルト	12.7	11.5	13.2	12	12.4	12.3	12.6	12.4	13.7	37.4	36.7	38.7	61.8	63.4
2月19日	未勝利	良	1:56:5	カレンラファータ	12.8	10.8	13.1	12.7	13.2	13.9	13.7	13	13.3	36.7	39.8	40	62.6	67.1
2月19日	新馬	良	1:56:3	メイショウオグマ	12.9	11.3	14.2	13.3	13.2	13	12.9	12.4	13.1	38.4	39.5	38.4	64.9	64.6
2月19日	3 1勝	良	1:54:4	ハセドン	12.8	11.2	13.5	13.1	13.4	13.2	12.3	12.1	12.8	37.5	39.7	37.2	64	63.8
2月20日	未勝利	稍重	1:56:7	パトリオットラン	13.2	11.9	14.3	12.8	12.8	13	13	12.3	13.4	39.4	38.6	38.7	65	64.5
2月20日	未勝利	稍重	1:56:0	インベルシオン	13.2	11.5	13.9	12.9	12.3	12.2	13	13.4	13.6	38.6	37.4	40	63.8	64.5
2月20日	1勝	稍重	1:55:4	モンサンイルベント	13.1	11.9	13.9	12.7	12.5	12.5	12.6	12.6	13.6	38.9	37.7	38.8	64.1	63.8
2月20日	2勝	稍重	1:55:6	スギノマジェスティ	13	11.9	14.1	12.7	13.1	12.8	12.1	12.5	13.4	39	38.6	38	64.8	63.9
2月26日	未勝利	良	1:55:1	ウィシンクアスク	12.9	11.5	13.8	12.7	12.7	12.8	12.6	12.4	13.7	38.2	38.2	38.7	63.6	64.2
2月26日	1勝	良	1:54:4	キングダムウイナー	12.8	11.7	13.5	12.6	12.6	12.6	12.8	12.7	13.1	38	37.8	38.6	63.2	63.8
2月26日	3勝	良	1:53:0	メイショウドヒョウ	12.9	11.4	13.6	12.6	11.5	12.4	12.6	12.6	13.4	37.9	36.5	38.6	62	62.5
2月27日	未勝利	良	1:57:0	メッセージソング	13	11.7	13.7	12.9	12.7	12.7	12.9	13	14.4	38.4	38.3	40.3	64	65.7
2月27日	未勝利	良	1:56:1	プラチナドリーム	13.5	11.3	13.9	13	12.4	13	13.1	12.6	13.3	38.7	38.4	39	64.1	64.4

こうしてレースラップ一覧を見ても３ハロン目のペースが極端に緩んでいるのが一目瞭然でわかると思います。そこから中盤部分はしっかりとペース流れてダートの総合力が問われる舞台と言えます。

大箱で力が発揮しやすい舞台なので極端に先行有利ということもなく、上級条件では差しもズバッと決まる感じ。新馬戦や未勝利戦では当然前に行った馬の方が有利な傾向が出ています。

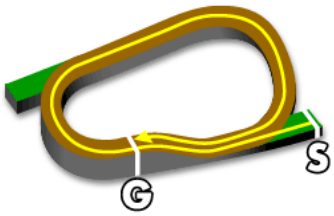
騎手で言えば阪神マイスターの川田騎手が複勝率６割で優秀な成績。種牡馬で言うとキズナ産駒が勝利数、複勝率ともに１位で非常に優秀な成績を誇っています。

＜まとめ＞

□ ３ハロン目が緩んでからのロングスパート勝負になりやすい
□ ダートの総合力が問われるコースで極端に前有利な舞台でもない
□ 川田騎手が複勝率６割超えで優秀な成績
□ キズナ産駒が勝率、複勝率ともにナンバーワンの成績

阪神ダート２０００m

序盤に位置が取りやすく、鈍足のスタミナタイプが輝きやすい舞台



スタート位置は阪神芝２２００m と同じ４コーナー部分の引き込み線。最初のコーナーまでの距離がダート戦にしては非常に長く、普通のコースではテンに位置が取れない馬でも主張すれば位置を取れるのがこのコースの特徴。スタミナはあるけど他のコースでは位置が取れずに終わっている馬が、このコースでは位置が取れて自慢のスタミナを存分に発揮するというパターンがよく見られます。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	7- 7- 5- 62/ 81	8.6%	17.3%	23.5%	122	80
平地・先行	45- 38- 34-113/230	19.6%	36.1%	50.9%	87	110
平地・中団	14- 16- 22-254/306	4.6%	9.8%	17.0%	100	72
平地・後方	1- 8- 6-238/253	0.4%	3.6%	5.9%	12	21
平地・ﾏｸﾘ	5- 3- 5- 15/ 28	17.9%	28.6%	46.4%	261	137
3F １位	31- 19- 12- 18/ 80	38.8%	62.5%	77.5%	375	219
3F ２位	24- 20- 11- 23/ 78	30.8%	56.4%	70.5%	280	211
3F ３位	5- 11- 19- 37/ 72	6.9%	22.2%	48.6%	44	117
3F ～５位	8- 18- 19-103/148	5.4%	17.6%	30.4%	99	92
3F ６位～	4- 4- 11-500/519	0.8%	1.5%	3.7%	2	13

※阪神ダート２０００m の脚質別＆上がり３ハロン別成績(２０２０年１月～)

脚質別の成績を見ると、逃げ馬の直後につける先行タイプの馬の成績が非常に優秀。長距離条件で最後の直線はどの馬もバテてしまうのであんまりズバッと差しは決まらない舞台で、ある程度の位置からじわっと仕掛けられるスタミナタイプが合う条件でしょう。少頭数になりやすく、なおかつ中盤ペースが緩むので捲りも決まりやすい舞台です。

＜まとめ＞

□ １コーナーまでの距離が長いのでテンに遅いスタミナタイプが位置を取れる
□ 先行してじわっとスタミナを活かすタイプの馬が有利
□ 捲りが決まりやすい舞台